

冬季の結膜炎と首の湿疹を経て再治療を開始した幼児アトピーの経過 (4歳8か月 女児)

症例 ID：001-04-NM

記録日：2014 年 4 月 23 日

1. 診断・治療前経過

1～2歳の夏に耳後部の亀裂ととびひを経験し、抗菌薬で治療しました。2歳冬からは眼のかゆみが出て、毎冬アレルギー性結膜炎として点眼治療を受けました。3歳冬には眼症状が強く、受診2～3か月前から首のかゆみも出ていました。皮膚へのステロイド使用歴はありませんでした。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	皮膚へのステロイド外用薬は使用していません。
製品名	該当しません。
強度	該当しません。
使用期間	使用歴はありません。
中止時期	該当しません。
来院前／後	来院前後とも皮膚への使用はありません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
1～2歳夏	耳後部症状	耳後部の亀裂ととびひに対して抗菌薬を使用しました。
2～3歳冬	眼症状	眼のかゆみを繰り返し、アレルギー性結膜炎として点眼治療を受けました。
3歳頃	治療開始	眼と皮膚の煎じ薬、外用薬を開始しました。
開始1～2週間	症状拡大	首から頭皮、顔、耳周囲、体幹、臀部へ赤い湿疹とかゆみが広がりました。
開始1か月頃	変化	新しい湿疹が増えなくなり、皮膚症状が徐々に軽減しました。
開始6か月頃	治療中断	症状がなくなったため煎じ薬を中断しました。
中断約5か月後	再燃	冬に首のかゆみが再び出ました。
再開2週間	経過中	首のかゆみが軽減し、他部位への拡大はみられませんでした。

4. ピーク時期

ピークは、初回治療開始後1～2週間に、湿疹とかゆみが首から頭皮、顔、耳周囲、体幹、臀部へ広がった時期です。

5. 困りごと

- 毎冬の眼のかゆみが続き、点眼治療でも十分に軽減しませんでした。
- 初回治療後に湿疹が全身へ広がり、家族が治療継続に不安を感じる時期がありました。
- 煎じ薬を継続して飲ませることが幼児本人の負担となりました。

6. 経過のまとめ

初回治療では約1か月後から湿疹が減り、6か月頃には皮膚症状がみられなくなりました。
中断後の冬に首のかゆみが再燃しましたが、再治療開始2週間後には軽減し、他部位への拡大もみられませんでした。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。